

ボランティアの心

野に咲く花のように

私のボランティア活動のきっかけは、15年前、須磨区であった児童の痛ましい事件後、心に傷を受けた子供達を励まそうと、コーラス部有志が始めた活動に参加したことだった。その後、同区内の老人介護施設にコーラス部として組織的にボランティアを始めたことを皮切りに、他の介護施設でも定期的に活動することになった。体制作り、先方との折衝等、未経験の試行錯誤の中で、現在のベースが出来たと思う。

現在はグループ“わ”からの依頼による活動が中心。活動は広がり、ある施設内のグループホームにて少人数で行うことになった。ここは比較的軽い認知症の人が多く、懐かしい童謡、唱歌、歌謡曲の歌詞カードを渡して一緒に歌っている。チームの一員に往年の歌手のビデオ映像を持っている人がいて、その日のプログラムに合わせた映像を見ながら楽しんで貰っている。

一方、フォークダンスボランティアは、保養センターひよどりのグリーンスクール講師を引き受けてから始めた。また垂水区内震災復興住宅で教

えていたフォークダンス部指導者が、病に倒れ急遽その代役を引き受けた。さらに、その住宅の生活支援員（神戸市介護福祉施設職員）と知り合い、これが縁となって高齢者支援活動（介護予防）の一環として、フォークダンスを教えることになり、継続している。“わ”を介した依頼で、須磨区内老人クラブにも対応している。いずれも対象が高齢者で、運動機能が衰えているので、それに合わ



せること、相手の目線で指導することを常に心がけている。

コーラス、フォークダンス共に伴奏曲の入手には苦勞している。これも独学で始めたパソコンが役立っている。他にも一時マジックボランティア

もしていたが、体調を崩して中止した。ボランティアによって相手が生き生きとされる姿を見ることで、自分も元気を貰うことができ、日々充実感を味わっている。ダ・カーポの曲「野に咲く花のように」の一節の“野の片隅に咲く花が人を爽やかにする”……でありたいと願っている。

釜田 弘（国際3）（写真は活動中の釜田さん㊞）

マジックの祭典にぎやかに 社協からの感謝状 花添える



第8回「マジックの祭典」が11月17日、たんぼぼホールで開かれ、卒業生と現役が日ごろ磨いた妙技を披露、交歓のひと時を過ごしました。今回は、KSCマジッククラブ（卒業生）に社会福祉協議会から感謝状が贈られたこともあって、お祝いモードの祭典となりました。

出演は現役のマジック同好会も加わり総勢36組・

41人。黒いハットに赤いタイ、ドレス姿の女性も混じって華やいた雰囲気。円熟したOBの妙技あり、17期生の力づよい演技あり、あっと驚く大技あり。拍手と驚きの不思議ワールドが3時間にわたって繰り広げられました。客席のOBは「例年より充実しているね」と満足そうでした。（写真は同クラブ提供）

感謝状は9月15日、神戸社会福祉大会でマジッククラブ・森田明朗代表に手渡されました。高齢者施設や病院、児童館などへの慰問活動を14年間にわたって続けてきた功績によるものです。慰問活動は同クラブが発足した平成8年に始まり、現在は5、6人ずつのグループで年間70回ほど出かけています。個人的に頼まれることも多く、月に数回活動している会員もいるそうです。現在、卒業生のマジッククラブが50人、現役のマジック同好会も50人ほどの会員がいて総勢100人の集団です。「マジックは交流のツールとして最高。皆さんに喜んでいただける限り、慰問活動はもっともっと続けますよ」。森田代表はやる気満々でした。